

人倫訓蒙圖彙

一

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



飛  
由

人備訂裝卷彙

一

かしたく 上もきふくくろ 藤入 結くわ

い いふふふふふふふふふふふふふふふふいふ

まふ 藤生しん 武吉あき 唐大か 和やま

まふ ちよあふふ 考入えん びんえん 人えん 倫えん

訓ま 棗ま 葉ま 一ま 名ま 分ま 物ま 名ま 一ま

大正 9.7.28 内交



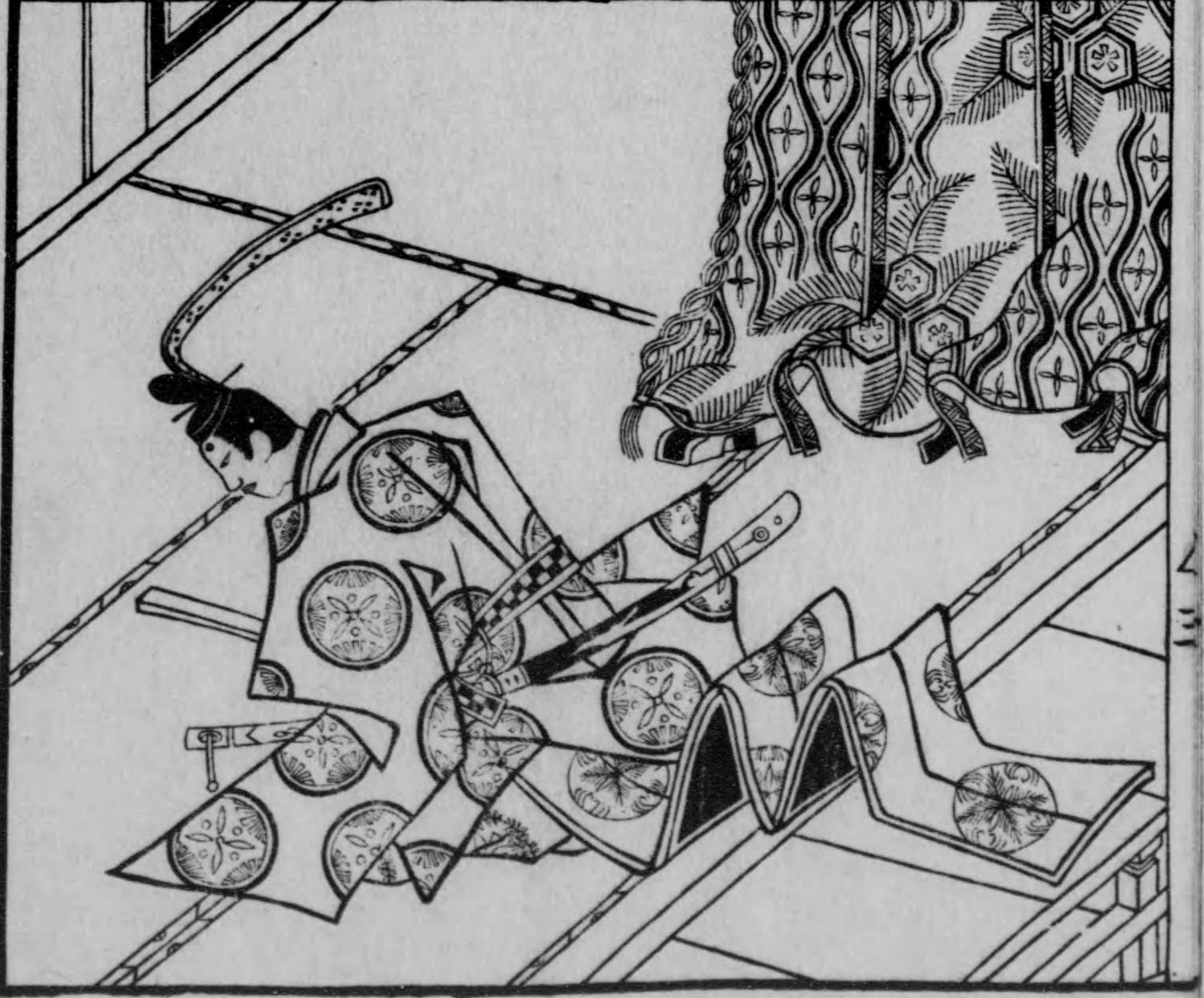
ぬきごと大信の与兼いよりて萬會官奏叙位除目以  
下れ公事とゆへ

**羽林家** 口辻 中ふ 飛鳥井 吟泉 六条 河井 徳水  
 小倉 橋中 松本 姉落 徳少 庭田 持明院 川路  
 眞井 水之能 園 雅波 白川 日原 徳尾 山科  
 西大 池少 已上二十一家  
 之儀事残りありけしゆふよりとてのく家とて  
**名家** 日野 廣橋 馬丸 柳永 丹波寺 葉室 万里  
 新 徳隆寺 中河門 馬園寺 小川坊 行松 已上十二家  
**羽林名家之姓** 言倉 言辻 大原 坊坂 唐橋 又辻  
**作内** 厨小徳 大津門 舟橋 已上十家也け中ふと  
 已上二十五家  
 已上二十五家  
 已上二十五家

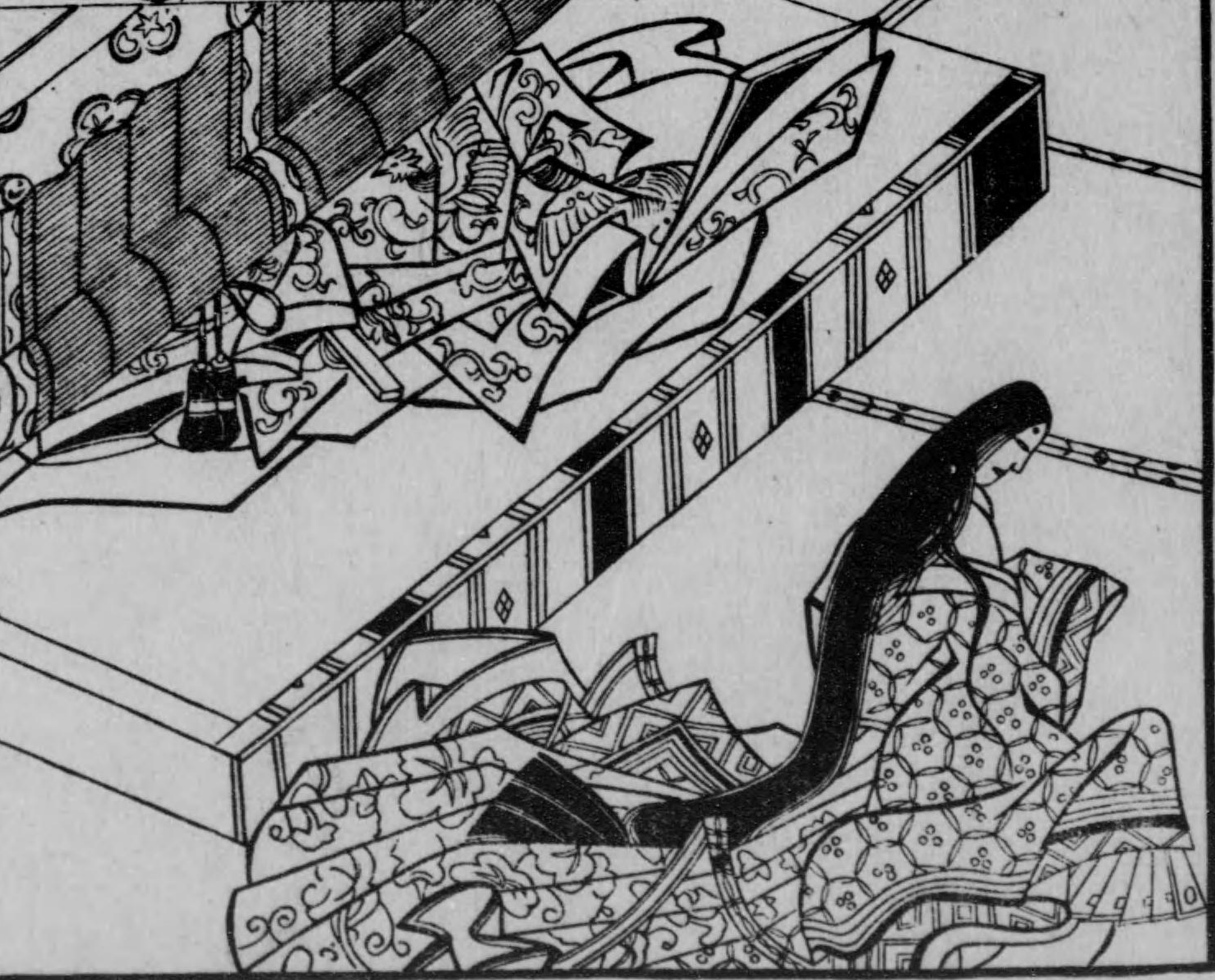
家内一家とあり又大信流とて括くて或ハ教二位と定  
 としつ家もありはとも中は赤坂と稱する家ハ世々  
 羽林とあり

**新家** とりふ家あり本流より分く或は流より分く  
 柴木は之 松殿 教内 堀川 樋口 平松 下冷泉  
 日井 飯若 柳月 本堂 久世 花園 東辻 米倉 七條  
 梅園 千種 塩小流 倉橋 已上十九家  
**又** 野宮 大友 伏見 押落 東松 柳解由 梅若 池尻  
 紫香 沙 桂 田向 山科 交野 蘭池 芝山 長谷 町尻  
 中川 綱登 菅岳 已上二十五家

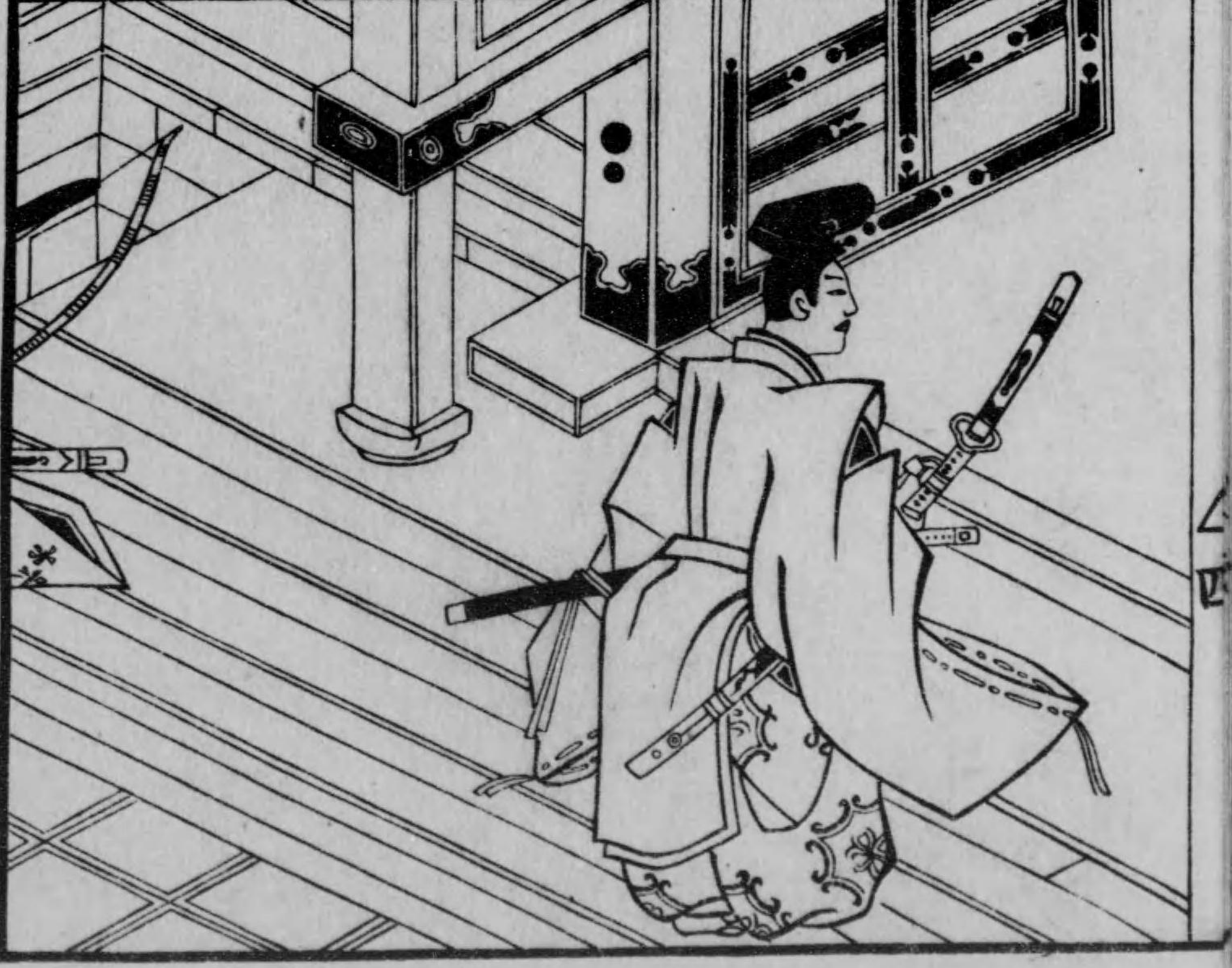
内侍司 尚侍ける二を  
 位お尚侍三位禁中  
 秘事内院は内門の  
 実中より又の上作出り  
 事とはさるゝと其水  
 禁中これ武命婦を  
 名お役之内の才と  
 勾當の侍りの長橋は  
 看み長はつゆ人の長指  
 婿とせし勾當内院勤  
 事りし事出は女を  
 友佐のたはるは女を  
 上と下侍りは御典侍



内侍司 尚侍ける二を  
 事内侍の内一を  
 侍りの長橋は  
 看み長はつゆ人の長指  
 婿とせし勾當内院勤  
 事りし事出は女を  
 友佐のたはるは女を  
 上と下侍りは御典侍



別当のしごと先凡一切志多  
 くの中若れお下居の徳信  
 志多飛目吉守の徳司徳守  
 女方り凡女方の上若小上  
 若内侍の若徳若徳よつら  
 若徳の内みりつは只中若  
 を若徳の縁よつら若徳の  
 つら若徳の縁よつら若徳の  
 若徳 或法下居の若徳の若  
 若徳中れ後除さう若徳の  
 役の若徳の選宗女方自難仕  
 上事下仕若徳の若徳女官  
 の若徳若徳抄了若徳の若  
 若徳



**奥様** 若方若 若徳の内室  
 若方若とつら 若徳の若徳  
 若徳の内室 若徳の若徳  
 若徳に初若し若徳若徳  
 けつらつらつらつらつら  
**若見** 若徳の子息十若つら  
**つら** 若徳 若徳若徳若徳  
**若若人** 若徳若徳若徳  
**若若人** 若徳若徳若徳  
 若徳若徳若徳若徳若徳  
 若徳若徳若徳若徳若徳  
**若九道** 若徳若徳若徳  
**若小若** 若徳若徳若徳



津波元 二家女家久  
 とも新ごしらえ  
 津波師 二家女家何ド  
 お継 二人いらま何  
 系る 二家女家何ド  
 中どとり 二家女家何ド  
 二家女家何ド  
 下女 二人とも新系  
 お板間 女は下女  
 女は奥男と女用別家  
 畳みみりり  
 小児 ひとりや  
 嬭 うも娘原居



祖父 翁男  
 津波 異親かり  
 乳人 乳ま  
 馬惚子親 名新親  
 津波親 名新親  
 津波 何の傍に  
 寺々へ学向よ  
 津へそねま  
 金づくの傍の津波  
 何の傍に  
 道真 二家女家何ド  
 一はわく基たか  
 わらうに新よ

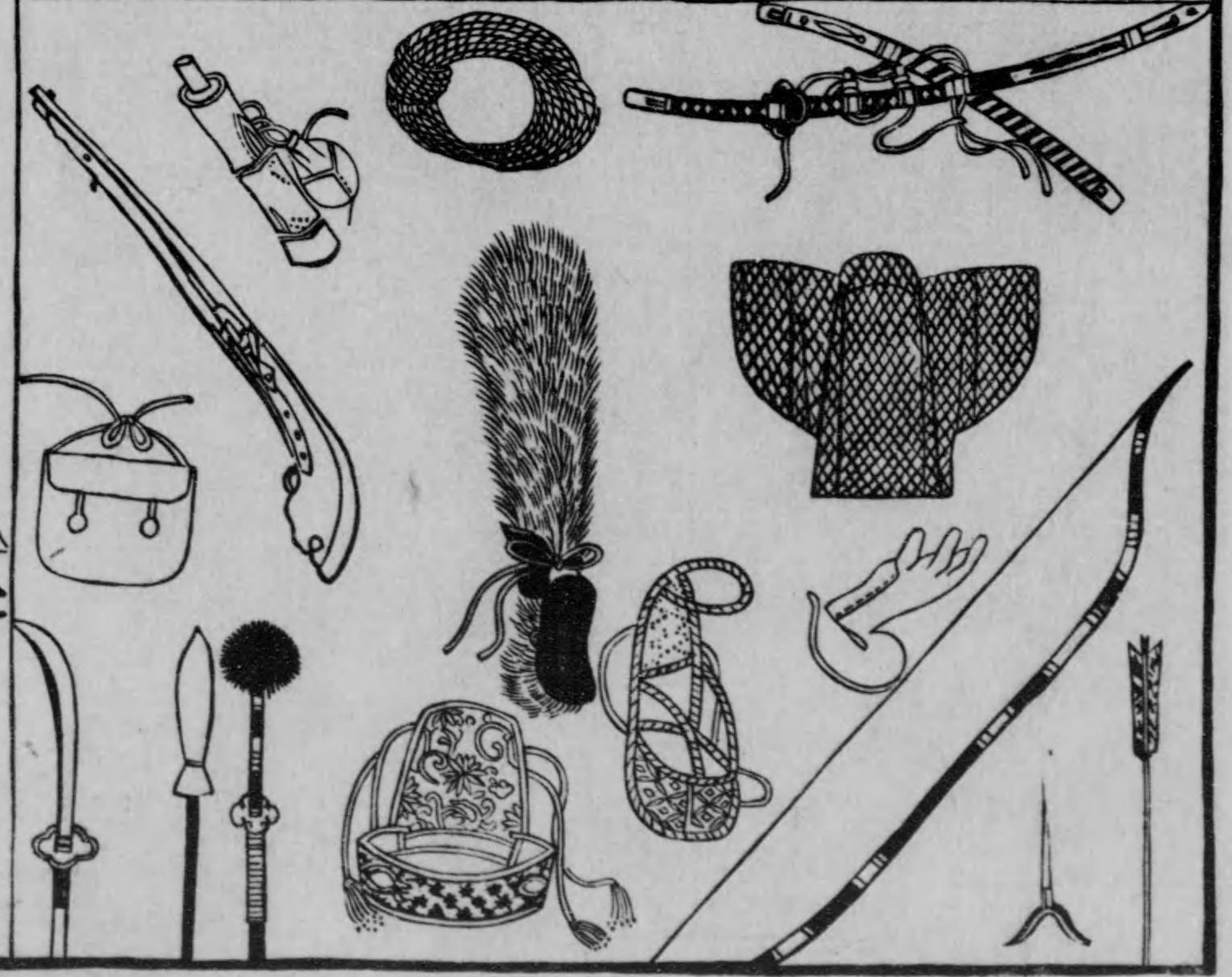




かみの職人の於ては、  
 代傳其まゝのあらわらざる  
 のりてし **冠** 爲家宗家  
 とありあり法官とある  
 の人いふと家とありは  
 十六の後に爲家よりあり  
 事なることとある家の  
 の附あり **烏帽子** 又あり  
 形をとりし或はわりの  
 家宗の法式に或は秘制  
 ありありありありあり  
 ありありありありあり  
 ありありありありあり  
**袍** 袍の志々の海へあり  
 ありありありありあり



久かり **室光** の人の對向の  
 とあり織文の丁子丸  
 たりとあり格致の  
 浦大開の  
**下袴** 袍の下に  
 あり表の他  
 りのりには  
 たりとあり  
 ありとあり  
 ありとあり  
 ありとあり  
 ありとあり  
**猪** 下袴の  
 ありとあり

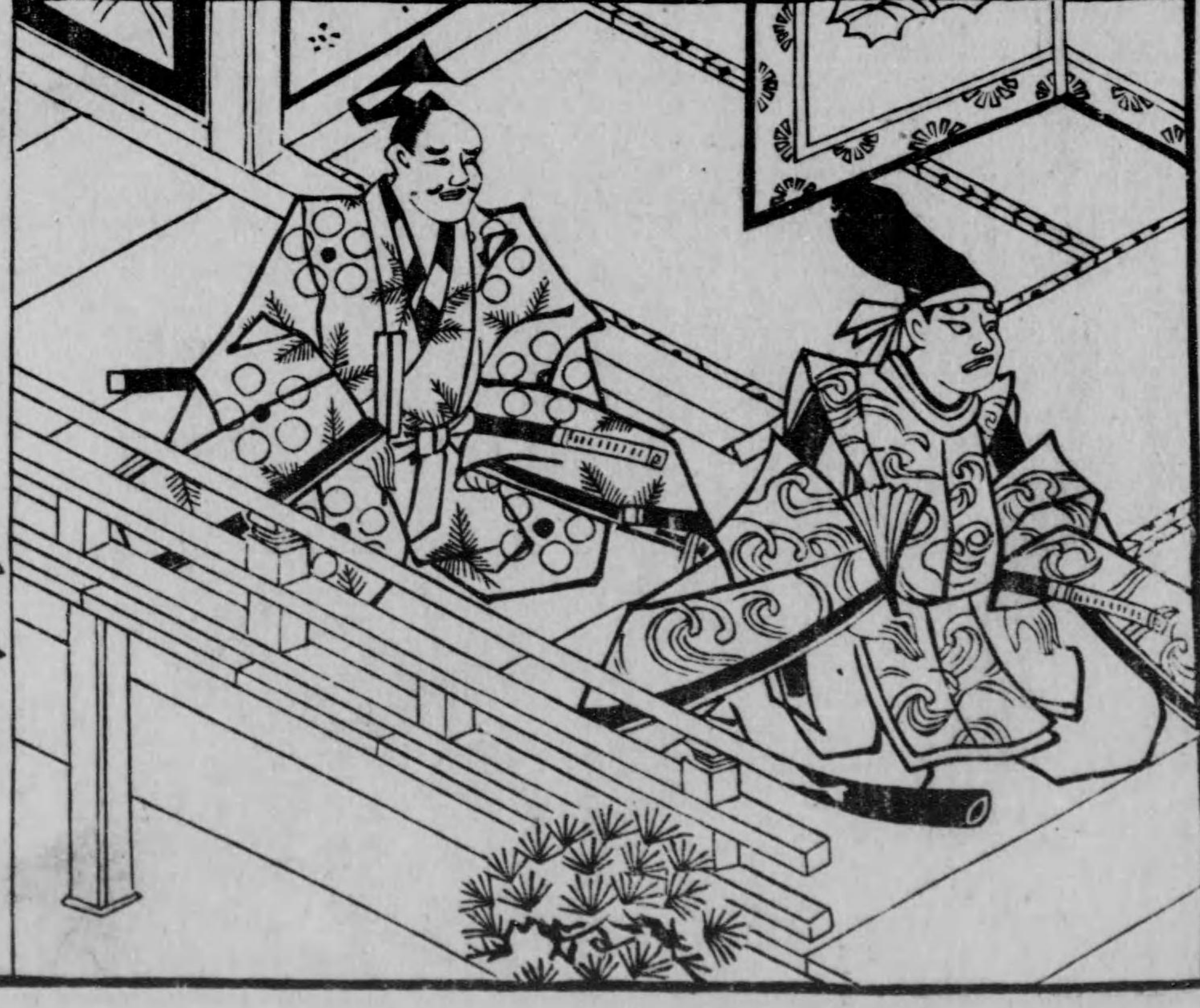




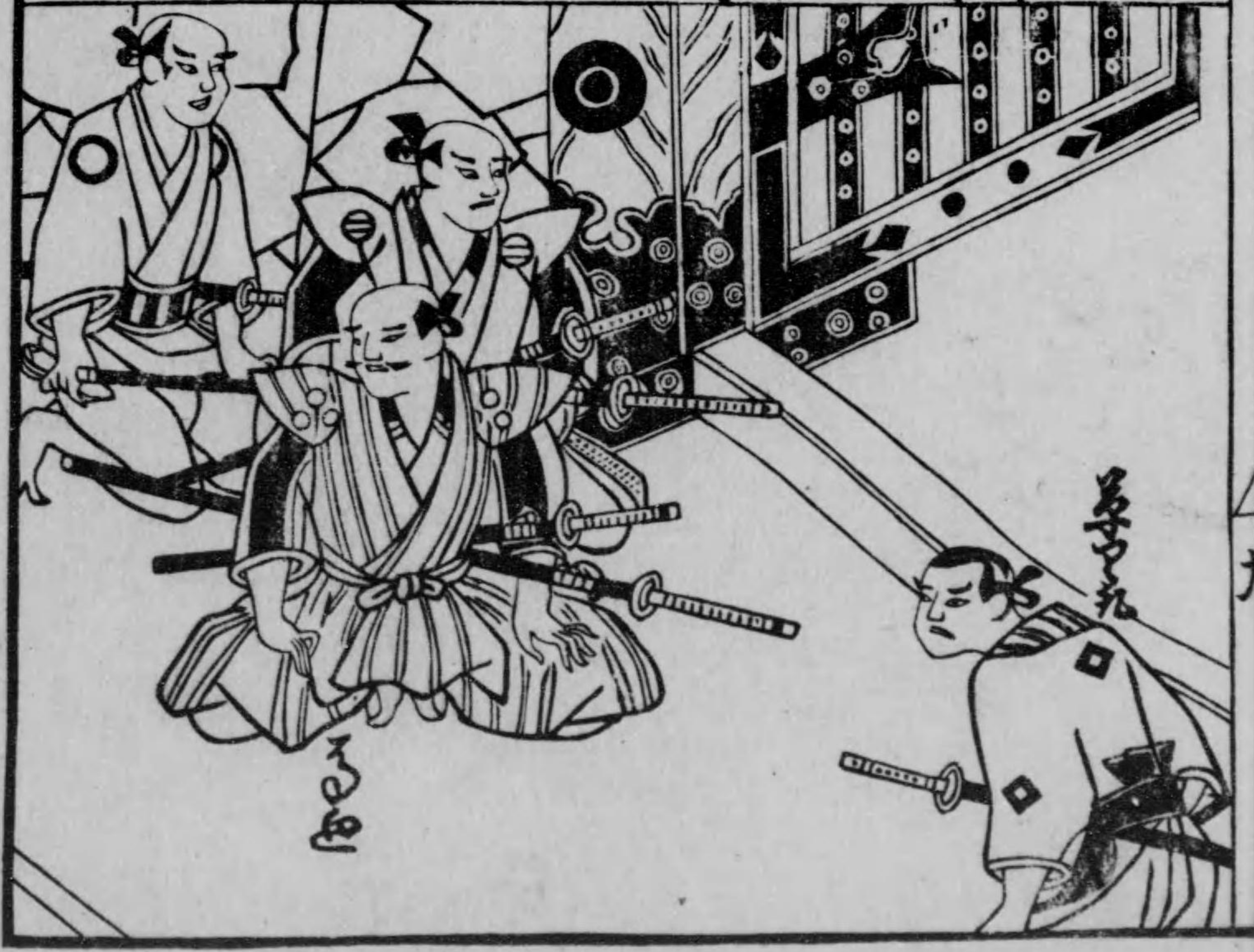
けつろふ病入るるをいふ  
 新り馬場子よ書家と  
 玉のふく納まひと清よ  
 まるし時のお家も人世初  
 許さくへいさよとあまはひさ  
 肉慾あてり子細あり  
**持衣** 浮世の境相  
 女のおとせり事細人  
 まへんよ何とてお家入  
 お梅も本とてまはひ又  
 御家更家とらふまのあり  
 是れお小書家とていへ  
 器と**水取** 紙あても  
 年納まひとてとらふあり  
 何れもまじりあり



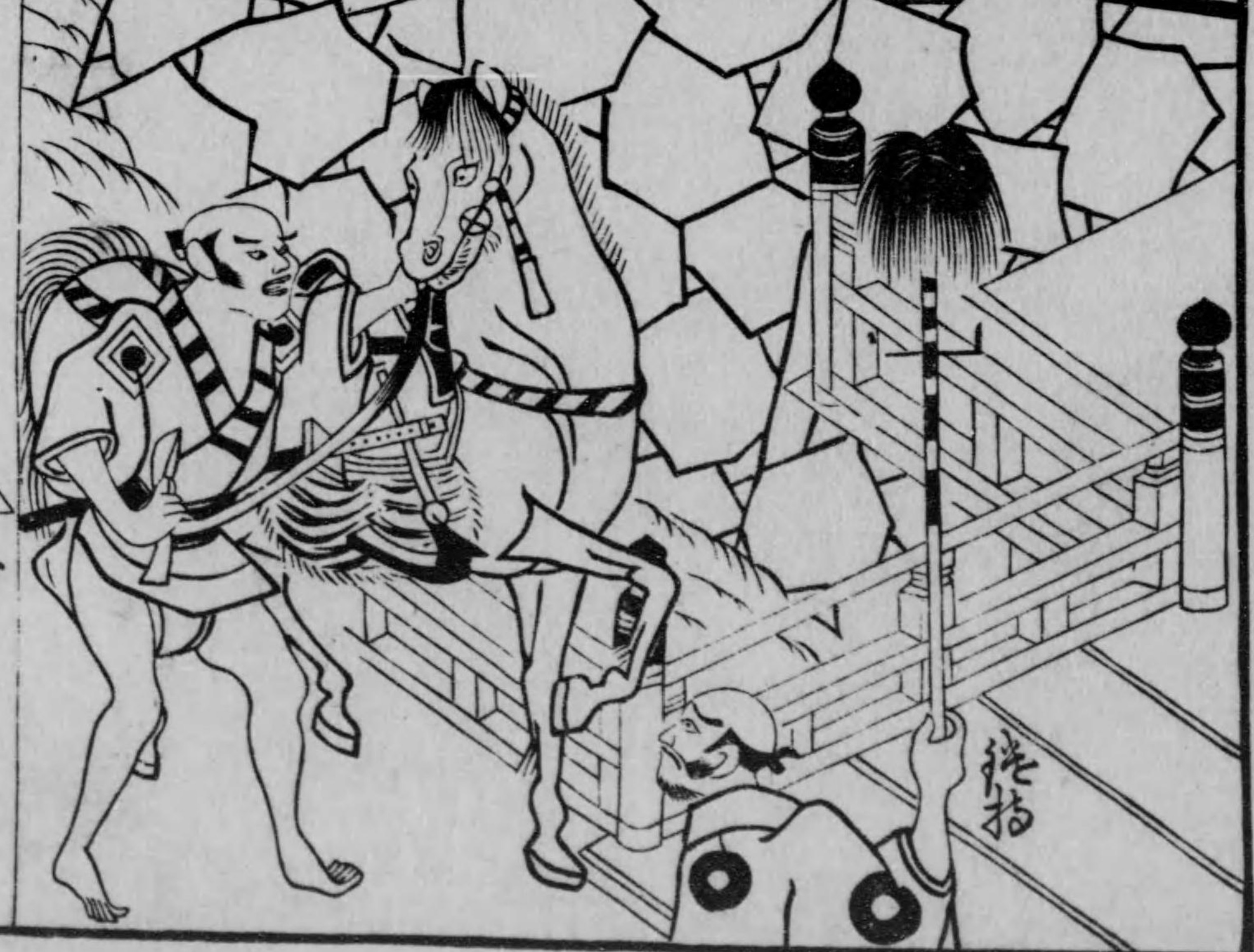
**弓** 新張よひるるお舟の人  
 の只梅の世波きりく書  
 のりりおきりの人の世波  
 とりりおきり世波の舟  
 のきりもとていへお舟  
**お梅** 年納まひとてとらふあり  
 わりも世波も世波酒はも舟  
 後よとてとらふも世波舟の舟  
 と用も世波も世波酒はも舟  
**お舟** 世波舟の舟とてとらふあり  
**糸** 糸と水精めり  
 の糸とてとらふも世波舟の  
 紙とてとらふも世波舟の  
 糸の糸とてとらふも世波舟の  
 糸の糸とてとらふも世波舟の



車積柳毛車横柳前指角  
 所半部銀鞍の馬あり皆  
 多下るすすくふ八八八八  
 りありあり車故ごりあり  
 名あり車の差御流葉御也  
 獲芳末法は法洞湯の指をくま  
 人の生言のありあり車は  
 多下りあり差の小後下後れ  
 口然又法七法をくく後よ  
 けつり具あり委流す  
 ちの道具訓義各景にわれ  
 野人  
 牛精 ちねんはは宮おる  
 多勢に馬に三つとつとつと



背くは智の文道と書ひて  
 柳魁分時本流く鹿よれり  
 多くを各神時さやまひぬ  
 くらからさつと智さつに  
 の所くはつと氣思のつてお  
 と堂育とふ付の方兵のあり  
 と指されも人さつとあり  
 利よわつてとん令とつと  
 多勢とつた國家と流つ事  
 指しは成さつとをありあり  
 切せりもあの家を流しとつ  
 もまねをとりあり



臣下 家老

管下とわれは流率の理と  
 一命と下ふあてきま  
 けりて侍とひるこ  
 家元と下しん家の事  
 志と下しん鉄とさし  
 物と下しんたはさし  
**奥家老** しの家の事か  
 れと流率とさし  
 志と下しん  
**物取** 家元はめく  
 侍より初一切れ物  
 真にほくくさし  
 の理と下しんはめ



海よりて私私なること  
 物取の事とさし  
**奉行** 物取を奉行し  
 始て一切の事にさし  
 志と下しん  
 くさし  
 下下知りたるか下  
 板の事と下しん  
 して依止因有る事  
**歌** とさし  
**代官** 志と下しん  
 して志と下しん  
 下下知りたる事



備一  
慈興うへへを歌ぬと  
よとに松歌とてしんた  
にありの依止とてしんた  
食事もとてしんた  
魚もめしとてしんた  
れ國やふあふのいぬ  
横岡とてしんた  
まの根分はぬとてしんた  
こは横岡とてしんた  
國はぬあふしんた  
あふぬのなあふぬ  
まの根分はぬとてしんた  
人の新ぬとてしんた



とてしんた  
横岡とてしんた  
まの根分はぬとてしんた  
こは横岡とてしんた  
國はぬあふしんた  
あふぬのなあふぬ  
まの根分はぬとてしんた  
人の新ぬとてしんた



但家よりのしきり  
**中少将** あかから  
あつとらんもむを  
あつとらんの中少将  
同格かくれな  
**見小姓** 旅人のひびき  
ひびきつて見入る人  
兵上中下よもむのし  
あかしのまへへは  
なへよりのひびき  
**馬廻** 白鳥崎のゆ



りともむのしきり  
年々使者あつたに  
あつとらん番役と  
あつとらん番役  
又いふまゝのいふまゝ  
機馬向の中より  
はつとらんあり  
**歩少将** 使者とあつ  
とすつ後入る侍  
あつとらん侍  
あつとらん侍  
あつとらん侍  
あつとらん侍



抄でいふ系習ふは将織  
 依ては一方所いづれか  
 ありて風俗なり  
 系ハるゝはわまびと  
 して漢家抄あり  
 母いづるては式定  
 てもあつくは後ありなり  
 ともんらるは事なれど  
 といふ一なりなむ  
 能くつれは抄の藤お  
 はんもあつては堀つ  
 ともしては  
 別番 馬あり  
 系も枕のあつたり



系方のもあつたり  
 よる系糖菓なり  
 どり一切も母のらあり  
 終のゆとまへより  
 富の方へはこむあり  
 じは夜と私欲屋を  
 下を食なりは安  
 とのげく旅を  
 と 引着 送地  
 系本入書とほむ  
 これと持守たり  
 系本入書とほむ  
 系とつるの系  
 系よりて系





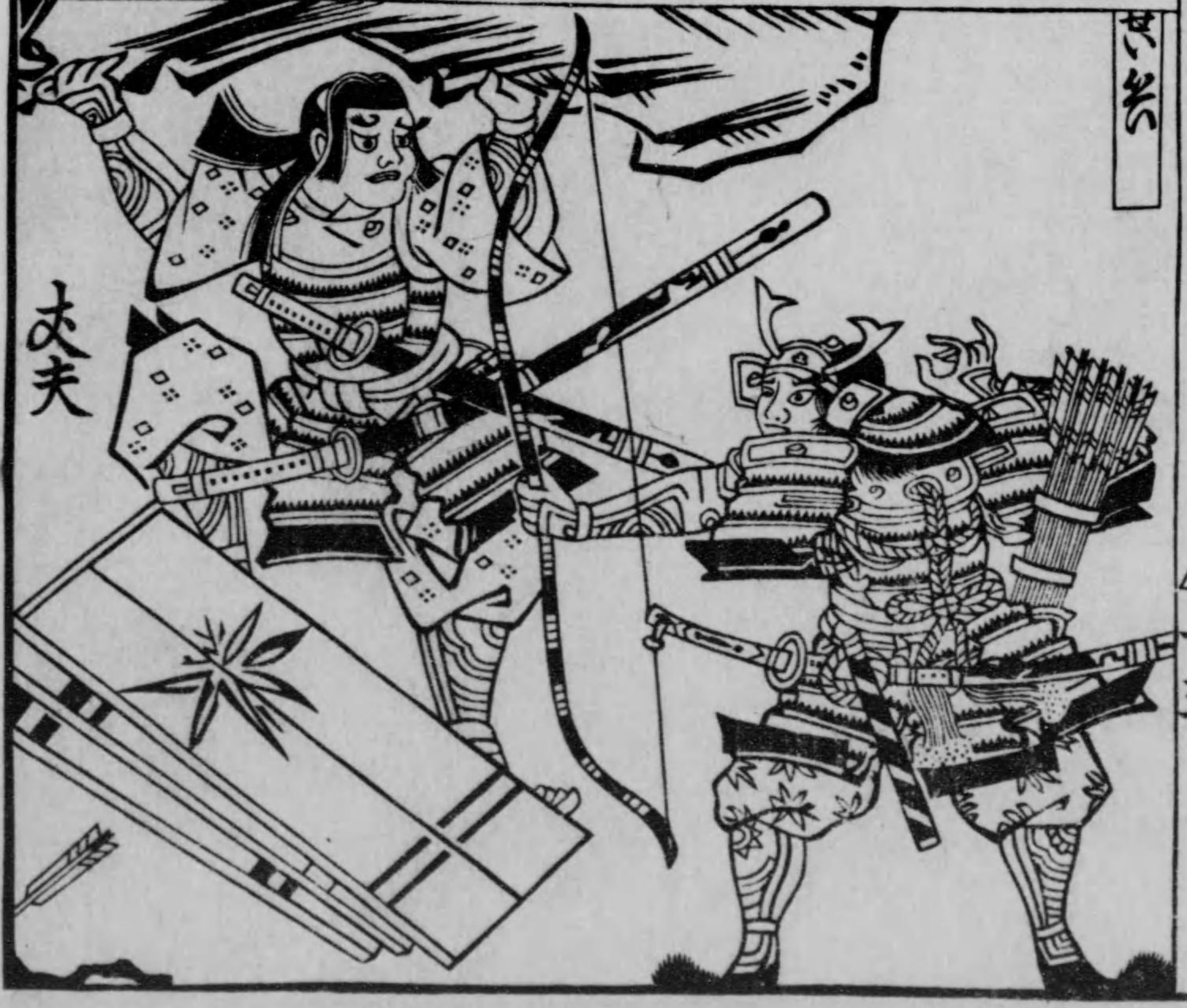
くらひくもつた文を千  
 ぶまの侍或は御二十  
 人御炮十人をもてあ  
 らしめ御職よりの御  
 御とつたつたあつた  
 ら御の下にあつたあり  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた



くらひくもつた文を千  
 ぶまの侍或は御二十  
 人御炮十人をもてあ  
 らしめ御職よりの御  
 御とつたつたあつた  
 ら御の下にあつたあり  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた  
 御とつたつたあつた



持持 大なる毛射のなる  
 かつて先づいふはかれど大  
 男にまていあくひと  
 毛中を定振子二風あり  
 何れも丈夫のたぐひ  
 ひと先づいふはかれど大  
 男にまていあくひと  
 毛中を定振子二風あり  
 何れも丈夫のたぐひ



わたしはあつたあつた  
 大男尻のたぐひ  
 水手者 家よまて  
 ぐありてあつたあつた  
 よかんらつたあつた



大徳の徳をばあつて  
 小徳あり **門番** 衆  
 めして同のよきと  
 と **大夫** が  
 人ありまひる  
**張** 張る  
**相撲** とも  
 切利骨と婆羅門  
 りののしり  
 とも  
 年七



三篇宗  
 三篇宗  
 三篇宗



聖王とてつる 般若の  
 心教とてつる 般若の  
 旅のついでに 僧の  
 僧の法を 僧の  
 教を 小僧の  
 道中の 師の  
 名のついでに 師の  
 のついでに 小僧の  
 名のついでに 師の  
 名のついでに 師の  
 名のついでに 師の



便舎宗

入道何りとも 僧の  
 教を 小僧の  
 道中の 師の  
 名のついでに 師の  
 のついでに 小僧の  
 名のついでに 師の  
 名のついでに 師の

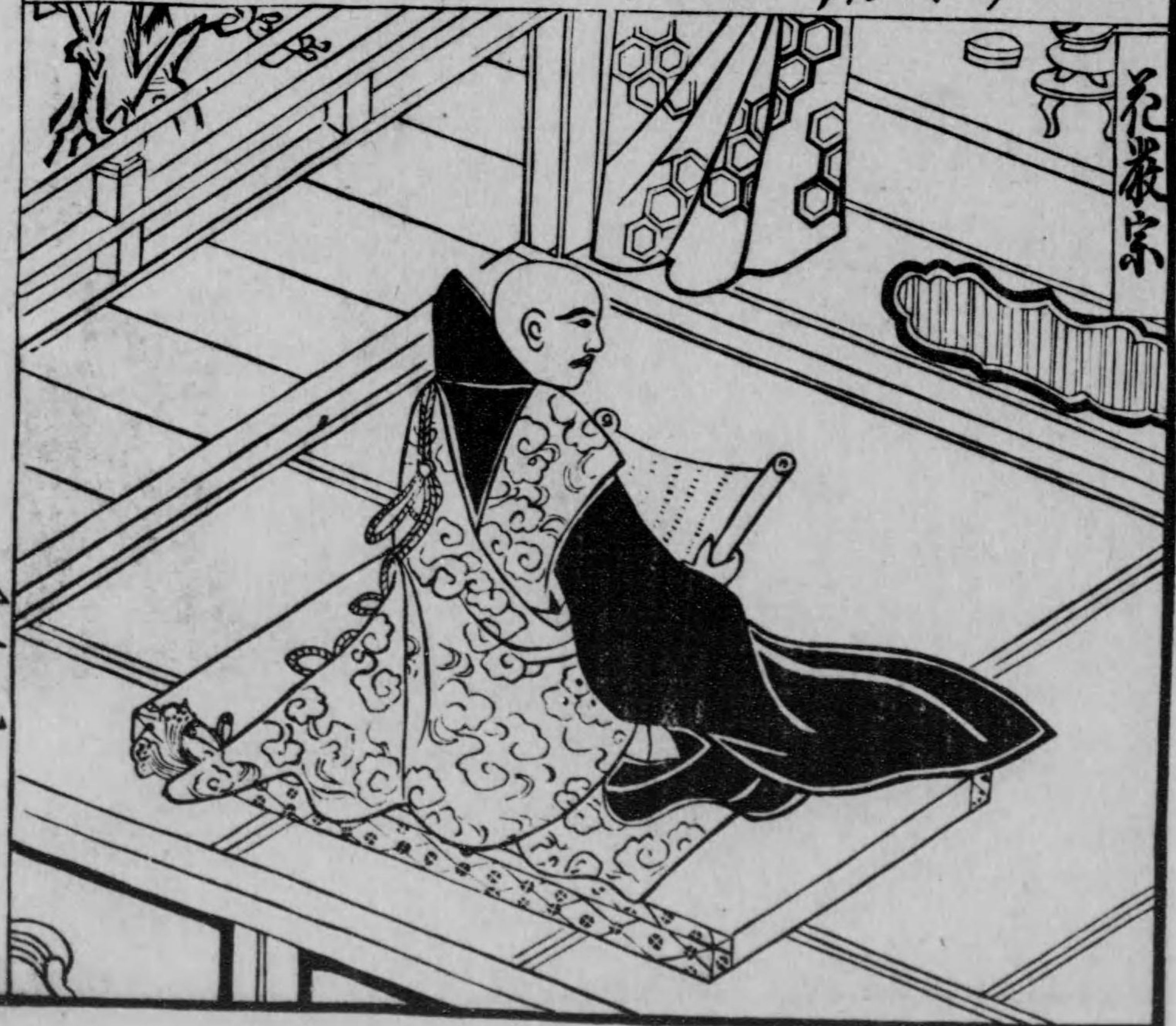


成実宗

西家 長老 孫 淨土門  
 法宗 阿闍梨 天台  
 言言 法相宗 天台  
 護法 佛にまじりてまじりて  
 さめくれば 孫あり 聖物  
 よくハ云 勝傍の 入倉  
 して 法をまじりて 入倉  
 代々 永くまじりて 入倉  
 庚辰より 孫宗 一はまじり  
 まじりて 入りて 入りて 入りて  
 解消 空を 持て 入倉  
 孫 入倉 法 孫 法 孫 法



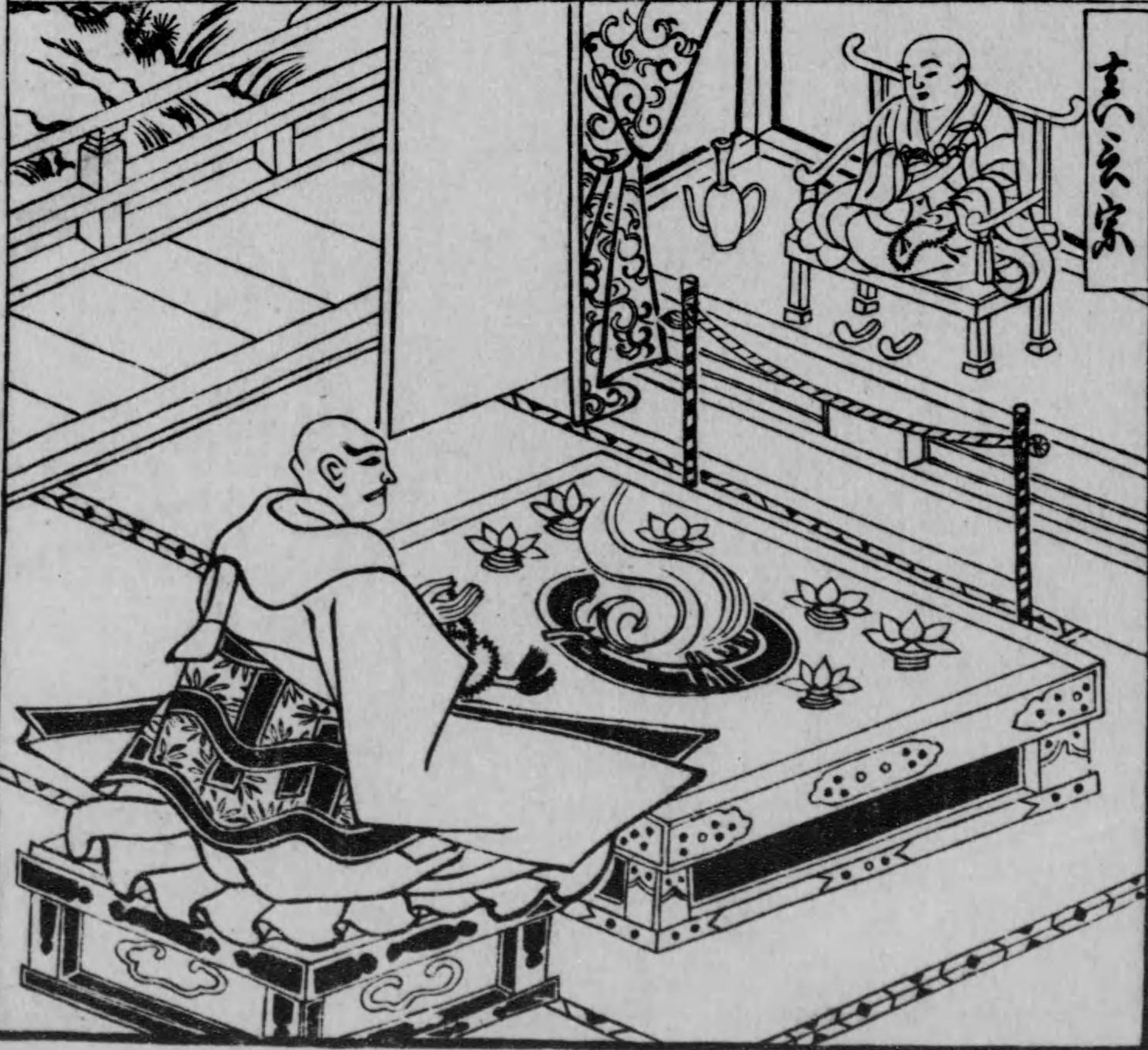
かりの寺 入具 福寺  
 三論宗 天台より 孫宗  
 此の寺に 入具 福寺  
 持統天皇 入具 福寺  
 壬辰二年 入具 福寺  
 月の初 入具 福寺  
 二門 入具 福寺  
 俱舎宗 天台 孫宗  
 の寺に 入具 福寺  
 文武 入具 福寺  
 三書 入具 福寺  
 俱舎 入具 福寺



**康宗** 天皇 後摩三  
 卷の石多し人會四十三  
 伏見明王會和銅三年  
 本に義よりる小宗  
 の宗あり **律宗** 大  
 坐前より三居り西是  
 人會四十四代元は天  
 皇の御前より年下  
 已よめ敷いそる人  
 律より大業小業あり  
 用り西律三大法四法  
 律より律あり



**花嚴宗** 震旦花嚴宗  
 尚の石多し人會四十六  
 代孝徳天皇の御前より  
 字の年甲午に六番  
 小海より後再傳の始り  
 真の形より花嚴宗  
**天台宗** 天台宗 文徳天皇御  
 南岳惠思大師の太子  
 智者大師の太子  
 目下より八相の太子  
 延暦九年乙酉より  
 又後より傳説の師也



自... 弟... 弟... 弟...

真言宗 南天竺... 南天竺... 南天竺...

... 南天竺... 南天竺... 南天竺...

... 南天竺... 南天竺... 南天竺...

... 南天竺... 南天竺... 南天竺...

... 南天竺... 南天竺... 南天竺...

... 南天竺... 南天竺... 南天竺...

... 南天竺... 南天竺... 南天竺...

... 南天竺... 南天竺... 南天竺...

... 南天竺... 南天竺... 南天竺...

... 南天竺... 南天竺... 南天竺...

禅宗



淨土宗



傳... 傳... 傳...

黃檗宗 淨土宗二世

... 淨土宗二世... 淨土宗二世...

... 淨土宗二世... 淨土宗二世...

... 淨土宗二世... 淨土宗二世...

... 淨土宗二世... 淨土宗二世...

... 淨土宗二世... 淨土宗二世...

... 淨土宗二世... 淨土宗二世...

... 淨土宗二世... 淨土宗二世...

... 淨土宗二世... 淨土宗二世...

淨土宗 人倫 廿二代

後醍醐天皇建武元年甲寅  
 實の法皇上人の御成  
 邦の不振去三統御  
 若道守人師教の教  
 忠信信都に達せし  
 集あへ  
 門法宗  
 此不立の依経法  
 下下和和和和和和  
 此の誓の徳  
 法宗 人皇八十九代  
 多念院 養安元年 幸  
 加田達上人 不立之  
 法宗 此の誓の徳



一家にありては  
 教書にありし法書と  
 人皇八十九代法皇  
 院建武元年三月廿日  
 わさ回ふひひひひひひ  
 ろめたまひひひひひひ  
 時宗 一遍上人の御成  
 熊神持法の子  
 門法宗  
 法皇の御成  
 法皇の御成  
 法皇の御成



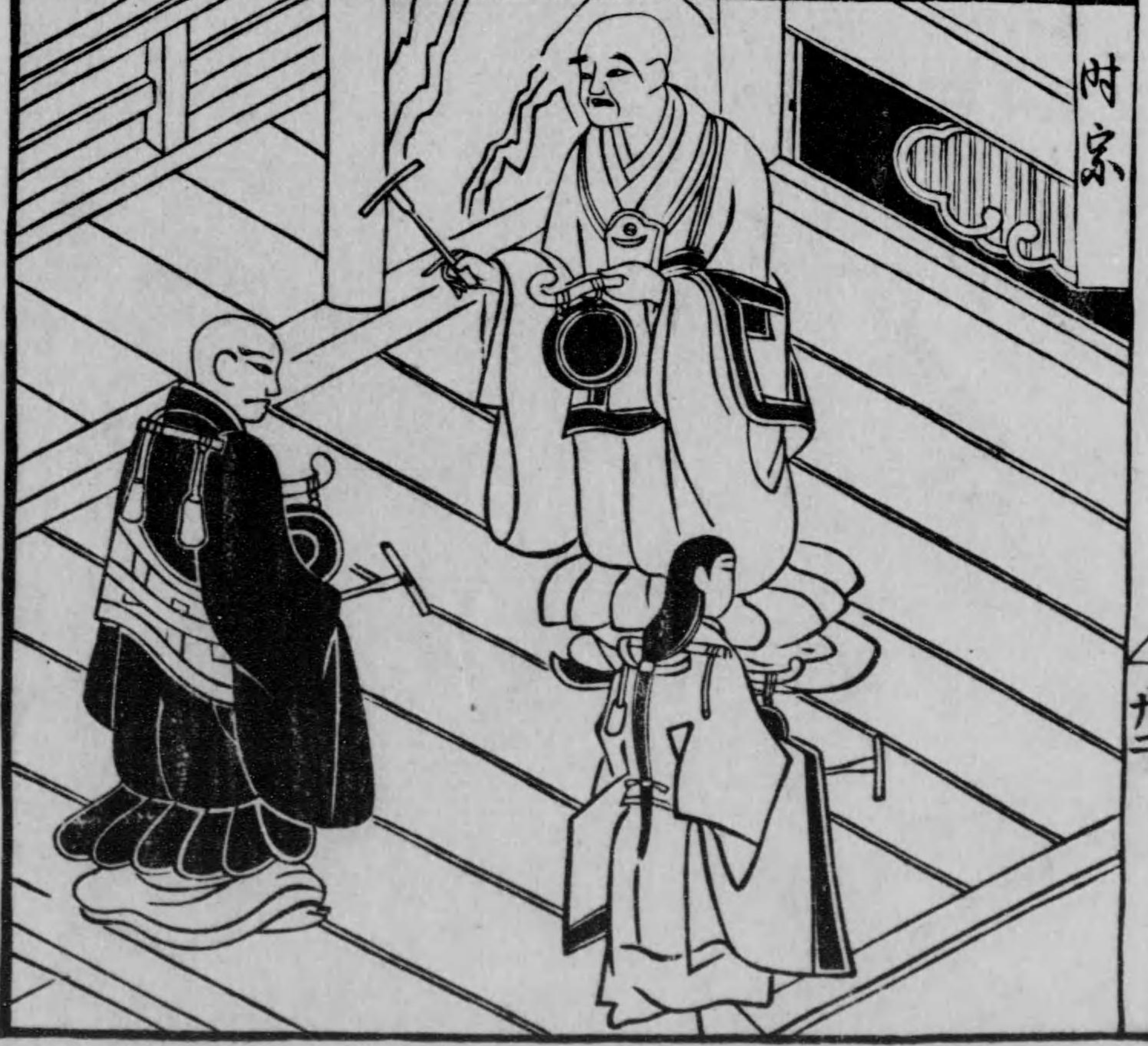


よ十戒を律宗よりみち  
ゆるいことし **沙弥尼**  
あまの沙弥尼のみ

**比丘** 律めくものり  
入戒八條戒より二百  
戒よりころ戒比丘のみ  
るり **比丘尼** 律戒の  
尼とりく **優婆塞**  
俗の戒となりらば道ま  
のころめし

**優婆塞**  
俗の女戒となりては  
よりのころめし

村家



比丘尼

**居士** 俗戒めては  
入戒を潔きはらひ  
**結心** 法をふみこみ  
の自めて法化は  
く持守まか  
**法化** 法同俗とり  
**本僧** 言の僧より  
まのい平場を  
**戒僧** 言の僧のみ  
よのいん人万  
まのいん人万  
ふ通第一に  
どうたらひ



居士

とらんとてな懐玉堅  
 のたぐひ強施せりけ  
 菜鳥酒造の料を食  
 りて水初らかじま  
 らせし隙の罪人  
**妻帯** 傍の泣く妻  
 子とてつらむらば  
 子とてつらむらば  
 中ぬやいほはま  
 おのりあはれり  
**山伏** 修持通る人  
 役小角とてさうじ  
 け人衆あはれ角の



破戒僧

とらんとてな懐玉堅  
 のたぐひ強施せりけ  
 菜鳥酒造の料を食  
 りて水初らかじま  
 らせし隙の罪人  
**妻帯** 傍の泣く妻  
 子とてつらむらば  
 子とてつらむらば  
 中ぬやいほはま  
 おのりあはれり  
**山伏** 修持通る人  
 役小角とてさうじ  
 け人衆あはれ角の



妻帯

印行三百部之内  
 第二號

大正九年七月廿五日印刷  
 大正九年七月廿八日發行

第二期  
 第一回

東京市牛込區富久町八十四番地  
 編輯兼發行所 山田清作

東京市下谷區御徒町一丁目七番地  
 印刷所 阿部鍋五郎

東京市牛込區富久町八十四番地  
 發行所 米山堂



15  
396

終